

南富良野小学校便り

やさしく あかるく たくましく



なんぷっ子

令和8年度 第2号

令和8年5月25日

南富良野町立南富良野小学校



TEL 52-2311

FAX 52-2375

←学校 HP QRコード

「変わる時代…子どもたちに本当に必要な力とは…」

校長 馬場 泰栄

4月29日(水)の昭和の日、東京の日本武道館で開催された「昭和100年記念式典」に参加いたしました。

式典において、内閣総理大臣は式辞の中で、昭和という時代について次のような趣旨を述べられていました。「戦争という苦難の時代を乗り越え、人々が力を合わせ、未来を信じて努力を重ねてきた。その歩みの上に今の日本があり、私たちはそれを次の時代へとつないでいかなければならない。」…この言葉を聞きながら、私は「昭和」という時代の重みを改めて感じました。

あの昭和の時代は、私たちにとって、どのような時代であったのでしょうか…。戦争という大きな悲しみと向き合いながらも、人々が力を合わせ、必死に未来を築いてきた時代…。不自由さの中にも、人と人とのつながりを大切にし、支え合いながら生きてきた時代…。そして、努力を積み重ねることで、よりよい暮らしを実現してきた時代でもありました。決して平坦な道のりではありませんでしたが、その歩みが、今の私たちの社会を形づくっています。

一方で、令和の時代は、変化のスピードが速く、先を見通すことが難しい時代です。社会や技術は急速に進歩し、価値観も多様化しています。その中で、子どもたちは人との関わりに悩み、自分に自信をもてなかったり、何が正しいのか迷ったりする場面が増えてきています。知識だけでは解決できない課題に向き合い、自ら考え、判断し、行動していく力が求められています。

では、なぜ今、このような時代において、本校が大切にしている考え方が必要なのでしょうか。

それは、これからの社会を生きるためには、「人とともに生きる力」がこれまで以上に重要になるからです。多様な価値観の中で、違いを受け止め、関わり合いながら、自分なりの答えを見つけていく。そのためには、安心して自分を出せる環境と、互いを認め合い、支え合う関係が不可欠です。

もし、子どもたちがそのような環境をもてなければ、挑戦することをためらい、失敗を恐れ、一歩を踏み出すことが難しくなってしまいます。だからこそ、学校は「安心」と「つながり」を土台とした学びの場でなければならないのです。

本校では、その基盤として「まほうかけあいだ」を大切にしています。

子ども一人一人のよさに気づく「まなざし」

温かい関係を育てる「ほほえみ」

安心して学べる環境づくりである「うるおい」

人と人をつなぐ「かかわり」

心と学びを支える「ケア」

人と関わり、信頼関係を築くための「あいさつ」

多様性を認め合う「いろどり」

そして、誰一人取り残さないという願い…

昭和の時代が「支え合いによって困難を乗り越えてきた時代」であったとするならば、令和の時代は、「違いを認め合いながらともに未来を創っていく時代」です。

これからの時代を生きる子どもたちにとって、「まほうかけあいだ」は単なる合言葉ではなく、これからの社会を生き抜くために必要な力そのものであると考えています。

昭和から平成、そして令和へとつながる歴史の中で、私たちは多くのことを受け継いできました。そして今、その大切なバトンを、子どもたちへと手渡していく時を迎えています。

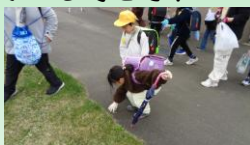
その歩みを支えていくのは、私たち大人の役割です。変化の激しい時代だからこそ、大人自身が学び続け、子どもたち一人一人の姿に向き合い、支え合う関係を築いていくことが求められています。

学校・家庭・地域が同じ方向を向き、それぞれの立場でできることを積み重ねていくことが、子どもたちの未来を確かなものにしていきます。大人の関わり方そのものが、子どもたちの生き方の土台となっていきます。

本校は、子どもたちが安心して学び、挑戦し、仲間とともに成長できる場であり続けます。そして、子どもたち一人一人の可能性を信じ、その未来を切り拓く教育に、全力で取り組んでまいります。今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

～集団下校訓練 & クリーン作戦～

5月1日(金)、集団下校訓練と合わせて、自分たちの住んでいる地域をきれいにし、進んで奉仕活動しようとする気持ちを育てる「クリーン作戦」を行いました。天候的には雨が降りそうな曇り空でしたが、何とかもちこたえ、通学路の確認、危険な場所はないかの安全の確認を行いながらの活動でした。子どもたちは安全に登下校するための危険箇所の認識と歩き方を学びながら、意欲的にゴミを拾い、自分の住んでいる町をきれいにすることができました。日頃より、地域の方に見守られながら子ども達が安全に登校できることに感謝申し上げます。これからもよろしくお願いいたします。



運動会(6/13)開催!

6月13日(土)は運動会です。子どもたちは一生懸命種目の練習に取り組んでいます。日程等に関わって改めて連絡いたします。

○観覧席の場所取りは、前日(6/12)17:30より行います。前席2列は区画割をしています。昨年度より小学校生活最後の6年生から場所取りを行います。その後、1～5年生の場所取りとなります。

○運動会当日(6/13)、AM6:00に運動会開催の有無をメールでご連絡します。花火はあがりません。

○今年度もPTA種目があります。4色対抗「お邪魔じゃんけんリレー」です。また今年度は幼児種目「ご来場の未就学児と祖父母(50歳以上であれば誰でも参加可能です。)」を対象に2チーム対抗の色水リレーに変更いたします。地域みんなで運動会を楽しみたいと考えています。ご参加よろしくお願いいたします。

○6/13が雨などの場合は、6/14に延期となり、6/15はお休みとなります。

○児童は閉会式終了後、記念写真撮影、後片付けをして下校となります。お弁当はいりません。後片付けをみんなで行いますのでご協力をお願いいたします。

日	曜	6月から7月はじめの行事予定
6/2	火	ALT 全校朝会
3	水	チャレ
5	金	ALT
9	火	運動会総練習
10	水	4時間授業
11	木	本部町交流事業事前研修会①
12	金	運動会日準備
13	土	運動会
14	日	運動会予備日
15	月	振替休業日
16	火	ALT 運動会后片付け マラソンデー クラブ活動①
18	木	本部町交流事業事前研修会② 集合学習①
19	金	ALT
22	月	参観日(4～6年) 親子プール清掃
23	火	ALT 参観日(1～3年) カヌー学習(5年)
24	水	カヌー学習(6年) 本部町交流事業結団式・事前研修会③
26	火	ALT
29	月	本部町交流事業(6年 7/3まで)
30	火	ALT カヌー学習予備日(5年)
7/1	水	チャレ 全校朝会
3	金	ALT
7	火	ALT クラブ活動②
8	水	チャレ
9	木	委員会前期④
10	金	ALT カヌー学習予備日(6年)



★6月は運動会、6年生が沖縄県本部町への交流事業に出かけます。子どもたちがとても楽しみにしている活動です。準備をきちんと行い、最高の思い出になることを願っています。



裏面に続く↓

避難訓練・緊急時児童引き渡し訓練を終えて

～「命を守る力」を学校・家庭・地域で育てるために～

5月9日（土）、本校では地震を想定した避難訓練及び緊急時児童引き渡し訓練を実施いたしました。保護者の皆様には、ご多用の中、ご参加とご協力をいただき、誠にありがとうございました。

災害は、いつ、どこで発生するか分かりません。学校では、子どもたちが安心して生活できる環境を整えるとともに、「自分の命を守る力」を育てることを大切にしています。今回の訓練では、避難行動の確認だけでなく、保護者の皆様と連携しながら、実際の災害時を想定した「命を守る行動」について確認を行いました。

1 避難訓練について

今回の避難訓練は、地震発生時における安全行動や避難方法を確認し、「自分の命を守る力」を育てることを目的として実施しました。

学校では、安全教育において特に「自助」の力を大切にしたいと考えています。「自助」とは、自分自身の命を自分で守ることです。災害発生直後は、まず自分の身を守る行動ができるかどうか重要です。

今回の訓練では、北海道シェイクアウト訓練の基本行動である「①まず低く、②頭を守り、③動かない」を確認しながら行いました。子どもたちは放送を聞き、机の下に身を隠し、落ち着いて安全行動をとる姿が見られました。

また、避難の際には、「おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない」の「お・は・し・も」を確認しながら避難しました。災害時には、不安や緊張から慌ててしまうことがあります。しかし、そのような時だからこそ、放送や教師の指示を最後まで聞き、落ち着いて行動することが、自分自身の命を守ることに繋がります。



今回は、保護者の皆様にも実際に避難へ参加していただきました。子どもたちにとっては安心感につながる一方で、保護者の存在が気になり、避難への集中が難しくなる様子も一部見られました。

しかし、それも実際の災害時に起こり得る姿です。だからこそ学校では、「どのような状況でも落ち着いて行動すること」の大切さを、今後も繰り返し指導していきたいと考えています。

今回の避難訓練では、避難完了まで3分40秒でした。

教職員が役割を分担し、人数確認や安全確認を行いながら、全員が安全に避難を完了することができました。一方で、避難誘導や役割確認など、さらに改善すべき点も見えてきました。例えば、避難経路の安全確認後の情報共有の在り方や、避難時における教職員の配置、最後尾での安全確認の必要性などです。災害時には、転倒や取り残し、不安から動けなくなる子どもが出ることも想定されます。特に、支援を必要とする児童への対応については、誰がどのように支援するのかをより明確にし、教職員同士が連携しながら迅速に対応できる体制づくりが必要であることを改めて確認しました。また、避難時の指示の出し方や、放送内容を最後まで聞いてから行動することなどについても、繰り返し指導していく必要があると感じています。



災害は、訓練通りに進むとは限りません。だからこそ学校では、「もし本当に起きたらどうするか」を常に考えながら、繰り返し訓練を積み重ねていく必要があると考えています。

2 緊急時児童引き渡し訓練について

避難訓練後には、緊急時児童引き渡し訓練を実施しました。今回の訓練では、「地震によって通学路の安全確認が難しく、児童のみでの下校が困難である」という状況を想定し、保護者への引き渡しを行いました。この引き渡し訓練を通して、「共助」の大切さを改めて感じました。

近年、日本各地で大きな災害が発生しています。その中で強く感じるのは、「地域のつながり」や「人と人との支え合い」が、命を守る大きな力になるということです。災害時には、学校だけでできることには限界があります。行政だけでも十分ではありません。だからこそ、家庭や地域がつながり、互いに支え合うことがとても重要になります。

南富良野町は、地域のつながりが強く、温かい地域です。この地域の力こそが、子どもたちの安心や安全を支えている大きな土台であると感じています。今回の訓練でも、保護者の皆様が真剣に参加してくださり、落ち着いて行動していただいたことで、大きな混乱なく引き渡しを進めることができました。

今回の訓練では、方面別に引き渡し場所を設定し、兄弟姉妹がいる家庭も含めて、円滑に引き渡しができるよう工夫を行いました。また、引き渡しカードや名簿を活用しながら、確実な本人確認を行いました。

一方で、実施後の振り返りでは、カード確認や名簿照合に時間がかかる場面もあり、個人情報の扱いについてのご意見もいただきました。

学校としては、「確実な引き渡し」と「迅速な対応」の両立が重要であると考えています。そのため、今後は家庭環境調査の改善や、新しい引き渡しカードの導入など、より安全で円滑な方法へ改善を進めていきたいと考えています。



災害時には、不安を感じる子どもも多くいます。そのような時に、学校・家庭・地域がつながり、子どもたちを支えていくことが大切です。私は、この「共助」の力こそ、これからの時代にますます重要になると考えています。

3 最後に

本校では、「まほうかけあいだ」の理念のもと、「誰一人取り残さない」安全教育を大切にしています。災害時には、不安を感じやすい子ども、支援を必要とする子どもなど、一人一人の状況に応じた対応が必要になります。

そのため学校では、「自分の命を守る力（自助）」、「地域や周囲と支え合う力（共助）」、そして「学校として命を守る体制（公助）」を、これからも大切に育てていきたいと考えています。

災害は、起きないことが一番です。しかし、もしもの時に備えることが、子どもたちの命を守ることにつながります。今回の訓練を機会として、ご家庭でも避難場所や連絡方法、「災害時にどのように行動するか」について、ぜひ話題にしていいただければ幸いです。

今後も本校では、学校・家庭・地域がつながりながら、子どもたちが安心して学び、安心して生活できる学校づくりを進めるとともに、「命を守る教育」を積み重ねてまいります。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。